

農業学校 決戦の夏挑む

篠山東雲高 吹奏楽・軟式野球部



①練習に打ち込む吹奏楽部員たち②大会に向けて意気込む軟式野球部員たち (いずれも丹波篠山市福住で)



実習、作物管理…忙しさ何の

少人数で奮闘する県立篠山東雲高校(丹波篠山市福住、81人)の吹奏楽部と軟式野球部が、「決戦の夏」を迎える。実習に午の世話、作物の管理…と忙しい農業学校。全員での練習も難しいハンデを乗り越え、それぞれの大会に挑む。(中野真一)

創部2年目で県コンクールの西阪神地区大会に初挑戦するのは、吹奏楽部。部員10人の大半が高校から楽器を始めた「初心者」だ。地元敬老会での演奏活動などが認められ、部に昇格したのが昨春。今年5月、音楽部から改称した。同好会として発足した2

017年は女子だけだったが、今は男子も2人。サックスやフルート、ドラム、トランペットなどの編成になった。コンクール出場を決めた今春以降は土、日曜も練習し、参加できない部員のパートナーは全員で補おうと音を重ねてきた。その成果を26日、西宮市

民会館での地区大会で発揮する。西宮や三田、丹波各市などの高校と県コンクール出場を争う。「地域に愛されるバンド」を目標に、地元行事でも心一つにハーモニを響かせてきた。部長の3年さん(17)は「地域の応援も励みに、力を出したい」。

軟式野球部は11人で、全国選手権兵庫大会での初勝利を狙う。創部2年目で初出場した昨夏を経て、部員の大半が卒業して2人とな

った今春は、公式戦を辞退せざるを得なかった。でも、主将の3年さん(17)がもう一人の2年生部員と一緒に新入生らを勧誘、仲間が増えた。主力の一部を除き、野球は小学校の頃から。校庭の草刈りから始め、最近では毎日3時間練習してきた。現チームで初の対外試合をした20日は、大阪の高校に敗れたが、4点を取って全員で喜び合った。

今春の担任と同時に就任した 監督(26)を含め、3人でノックやキャッチボールをした頃と、今は違う。さんは「チーム一丸で練習したことを出し、全力で勝ちにいく」。飾磨工業との初戦は、25日。アメニスキピースタジアム(三田市)で午前11時半プレーボールだ。全国大会出場を夢に描く「さわやかイレブン」を、監督は「懸命にやることの大切さを学んでくれているはず」と見守っている。

読売新聞
2019年7月25日